

# 地域における若者の自立支援に係る内閣府の取組

平成20年6月6日  
内閣府  
青少年育成第1担当

## 方針

○青少年育成施策大綱（平成15年12月）～重点課題に「青少年の社会的自立の支援」を設定  
⇒教育、職業選択、職業訓練、生活保障等に係る包括的な若者の自立支援方策を検討・推進

### 平成16～18年度

若者の包括的な自立支援方策に関する検討会（平成16年9月～17年6月）

- ◆ 若者を個人ベースで包括的・継続的に支援する体制の整備を提言
- ◆ 体制整備に向けた課題
  - ・関係支援機関の範囲及び中核機関について
  - ・ユースアドバイザー（仮称）の養成について
  - ・連携上の問題（特に若者の個人情報の共有）について

英国のコネクションズ・パーソナル・アドバイザーの養成制度等に関する調査（平成18年3月）

- ◆ パーソナル・アドバイザーの素養・要件、採用・資格、全英共通の養成プログラムの概要等について調査

ユースアドバイザー（仮称）の研修・養成プログラムの開発に向けた調査研究（平成19年3月）

- ◆ 若者の自立支援に対する専門的な相談員に求められる素養、資質等を検討
- ◆ 中核機関等のユースアドバイザーの役割を検討し、研修・養成に必要な内容を提示

### 平成19年度

ユースアドバイザー（仮称）の研修・養成プログラムの開発

- ◆ 相談・支援機関の相談員を対象としたユースアドバイザーの研修・養成プログラムの作成（内容、学習形態、期間、キャリアアップの仕組み等に関する事項を含む。）
- ◆ 研修教材の作成（プログラムの項目ごとに基本的事項を簡潔に記述。学識者・実務者を中心に執筆。実践事例を多数掲載）
- ◆ 地域における研修実施計画案の作成
- ◆ 以上をとりまとめた冊子『ユースアドバイザー養成プログラム』の作成・配布

少年補導センターを活用した青少年の社会的自立のための総合的支援モデル事業

- ◆ 全国3地域で実施
- ◆ 個別的・継続的支援体制の構築に向けたモデル事業の実施
  - ① 総合コーディネーターの配置
  - ② 知恵袋会議の設置（多角的なケース検討、スーパーバイズの実施）
- ◆ 連携の必要な関係機関等の開拓

### 平成20年度

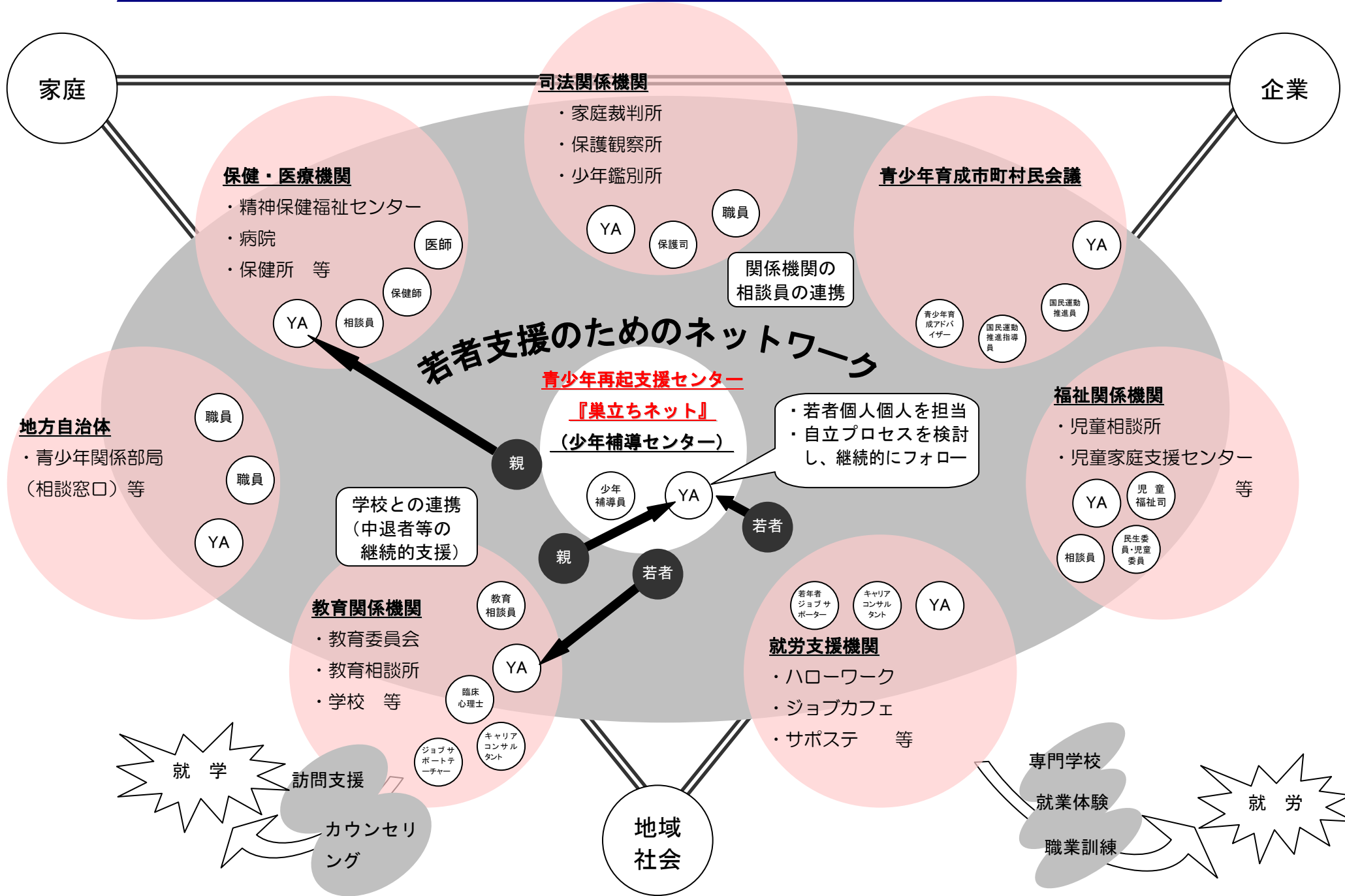
地域における若者支援のための体制整備モデル事業

- ◆ 全国9地域（予定）で実施
- ◆ ユースアドバイザー養成講習会の実施
  - ① 対象者の理解、様々な社会資源とネットワーク、アセスメントと支援計画等
  - ② 各地域で月1回程度実施（計8回）
- ◆ 相談・支援関係機関のネットワークによる支援の実施
  - ① 非行、不登校、ひきこもり等あらゆる問題を総合的に支援
  - ② 相談の総合受付、査定、支援計画作成、アウトリーチ等を実施
  - ③ 関係機関等のユースアドバイザーによる定例会議、ケース検討会の実施

『ユースアドバイザー養成プログラム』の改訂に向けての情報収集

- ◆ 上記モデル事業におけるプログラムの試行状況及び各自治体等での活用状況等を踏まえ、改訂に向けての情報を収集

# 地域における若者支援のための体制整備モデル事業



# 「ユースアドバイザー養成プログラム」 ～関係機関の連携による個別的・継続的な若者支援体制の確立に向けて～

## 本書の目的

- ◇ 若者の自立支援に対応する専門的な相談員(ユースアドバイザー)養成のために必要と思われる項目を整理し、学習内容を体系的に配列した研修プログラムを作成
  - ◇ 研修プログラムに対応した教材を作成
  - ◇ 地域における研修計画を例示
- ⇒ 地域における若者自立支援体制の整備の促進に寄与

## 本書の特徴

- ◇ 就労、教育、保健・医療、福祉、非行問題等幅広い領域で自立支援をめぐる状況をカバー
- ◇ ニート、ひきこもり、不登校、心身の障害、非行など困難な問題を抱えた若者の就労や就学、社会参加など社会的自立のための対策を網羅
- ◇ 若者支援の実務者や現場に通じた執筆者による実務に即した具体的な記述
- ◇ さまざまな支援現場の実践例を豊富に紹介(33例)

## 研修教材の主な内容

### 【第1章 制度の概要及び業務の内容】

- ▽ ユースアドバイザーの役割
- ▽ 自立の困難を抱える若者の実態と支援サービスの課題
- ▽ 若者支援における諸機関が連携した支援体制の重要性 等

### 【第2章 支援対象者の理解】

- ▽ 若者を取り巻く現状(少子化・晩婚・非婚化をめぐる状況、学校から職業生活への移行、雇用・就労をめぐる現況、若者のメンタルヘルス、若者の自立支援の現状 等)
- ▽ 若者の抱える問題(不登校、高校中退、ひきこもり、薬物依存、非行・犯罪、摂食障害、自傷行為、HIV感染症、発達障害、社会不安障害 等)

### 【第3章 さまざまな社会資源】

- ▽ 関係分野の制度の概要(社会保障、公的扶助、地域福祉、障害者福祉、児童福祉、少年司法、労働環境 等)
- ▽ ネットワーキング(ネットワークの意義、ケース検討会等の進め方、若者に関わる諸機関の概要 等)

### 【第4章 支援の実施】

- ▽ 相談における基本的態度と心得
- ▽ 支援計画作成のための評価(アセスメント、支援計画)
- ▽ グループワーク、生活支援、就職・就学支援、家族支援、フォローアップ、個人情報取扱
- ▽ アウトリーチ(ひきこもり、不登校、その他の不適応問題対応のための訪問支援の方法)

## 対象者に応じた重点項目

- ◇ 若者支援ネットワークの中核機関の相談員(アセスメント、支援計画策定、人材育成、ネットワークの総合調整等)
- ◇ 若者支援に携わる各相談・支援機関の相談員(対象者理解、ネットワークの活用、アウトリーチ等)
- ◇ 青少年育成関係のボランティア(各種社会資源の理解、潜在的な対象者の発見)

# ユースアドバイザー研修教材の執筆者

章・節・項	執筆者（所属）	章・節・項	執筆者（所属）
<b>第1章 制度の概要及び業務の内容</b>	宮本みち子（放送大学）	<b>第3節 支援計画作成のための評価</b>	青木宏（甲府少年鑑別所）
<b>第2章 支援対象者の理解</b>		①～④アセスメントについて	岩本真実（若者自立塾 Y-mac）
<b>第2章のねらい</b>	小杉礼子（労働政策研究・研修機構）	⑤現場の実践例（若者自立塾 Y-mac）	原田公人（国立特別支援教育総合研究所）
<b>第1節 若者を取り巻く現状</b>		⑥現場の実践例（特別支援教育における査定）	
①若者の人口と世帯構造	宮本みち子（放送大学）	<b>第4節 グループワーク</b>	福島喜代子（ルーテル学院大学）
②学校から職業生活への移行	小杉礼子（労働政策研究・研修機構）	①～③グループワークについて	久保田康文（洗足サレソビシク・サポ・トアフィス）
③雇用・就労をめぐる現況	”	④認知行動療法	福島喜代子（ルーテル学院大学）
④若者のライフスタイル	宮本みち子（放送大学）	⑤SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）	澤本和重（株）HRP）
⑤情報化社会の現状と若者に及ぼす影響	佐々木輝美（国際基督教大学）	⑥現場の実践例（若者を対象としたグループワーク）	津富宏（静岡県立大学）
⑥若者のメンタルヘルス	齋藤万比古（国立精神・神経センター）	⑦現場の実践例（参加型ワークショップ）	
⑦若者の非行及び犯罪の現状	小坂清文（法務総合研究所）	<b>第5節 生活支援</b>	和田重宏（NPO 法人子どもと生活文化協会）
⑧若者の自立支援の現状	工藤啓（NPO 法人「育て上げ」ネット）	①生活自立支援の意味	”
<b>第2節 若者の抱える問題</b>		②生活自立支援のスタイル	佐野正明（草津市立少年センター）
①不登校・高校中退	清田晃生（国立精神・神経センター）	③現場の実践例（あすくるの「自分探し」・「生活改善」支援）	出村多恵子（兵庫県立神出学園）
②若者のひきこもり	近藤直司（山梨県立精神保健福祉センター）	④現場の実践例（兵庫県立神出学園）	深谷潤一（若者自立塾「キャリア・ビレッジ」）
③薬物依存（麻薬、覚せい剤、向精神薬、アルコール等）	船田正彦（国立精神・神経センター）	⑤現場の実践例（若者自立塾「キャリア・ビレッジ」）	
④非行・犯罪	近藤あゆみ（国立精神・神経センター）	<b>第6節 就職（就学）支援</b>	安川雅史（全国 web カウンセリング協議会）
⑤摂食障害・自傷行為・自殺行動	津富宏（静岡県立大学）	①～③就職（就学）支援について	佐野正明（草津市立少年センター）
⑥HIV 感染症	松本俊彦（国立精神・神経センター）	④現場の実践例（あすくるの「就学」・「就労」支援）	
⑦身体障害	本田美和子（国立国際医療センター）	⑤現場の実践例（キャリアカウンセリング）	橋本光生（かわぐち若者サポートステーション）
⑧知的障害・発達障害	三好耐史、上野久美子、丸山華子、春日井中（国立身体障害者リハビリテーションセンター）	⑥現場の実践例（ジョブコーチ）	小嶋文浩（独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構）
⑨精神障害（社会不安障害を含む。）	齊藤万比古（国立精神・神経センター）	⑦現場の実践例（伴走型支援）	津富宏（静岡県立大学）
	清田晃生（国立精神・神経センター）	⑧現場の実践例（さが若者サポートステーション）	松尾秀樹（さが若者サポートステーション）
<b>第3章 さまざまな社会資源</b>		⑨現場の実践例（個別就労支援プログラム Individual Placement and Support: IPS)）	香田真希子（国立精神・神経センター）
<b>第3章のねらい</b>	津富宏（静岡県立大学）	⑩コラム（就職支援に関するエビデンス）	津富宏（静岡県立大学）
<b>第1節 関係分野の制度の概要、関係法規等（社会の仕組み）</b>		<b>第7節 家族支援</b>	長須正明（東京聖栄大学）
①社会保障の仕組み	藤林慶子（東洋大学）	①～④家族支援について	後藤雅博（新潟大学）
②公的扶助の仕組み	岡部卓（首都大学）	⑤心理教育	佐野正明（草津市立少年センター）
③地域福祉の仕組み	加山弾（東洋大学）	⑥現場の実践例（あすくるの「家庭」支援）	秋田敦子（NPO 法人わたがの会）
④障害者福祉の仕組み	高山直樹（東洋大学）	⑦現場の実践例（自立困難な若者を抱える家族への支援）	萩原和子（山梨県立精神保健福祉センター）
⑤児童福祉の仕組み	有村大士（日本子ども家庭総合研究所）	⑧現場の実践例（山梨県立精神保健福祉センターにおける家族支援）	内藤孝子（大阪LD親の会「おたふく会」）
⑥教育制度の仕組み	新井郁男（上越教育大学）	⑨現場の実践例（大阪LD親の会「おたふく会」の活動）	
⑦少年司法の仕組み	澤登俊雄（國學院大学）	<b>第8節 フォローアップ</b>	工藤啓（NPO 法人「育て上げ」ネット）
⑧労働環境（職業紹介を含む。）の仕組み	金崎幸子（東京労働局雇用均等室）	①フォローアップの意味と課題	”
<b>第2節 ネットワーキング</b>		②現場の実践例（NPO 法人「育て上げ」ネット）	津富宏（静岡県立大学）
①ネットワークを構築する意味	津富宏（静岡県立大学）	③現場の実践例（青少年就労支援ネットワーク静岡）	
②生活保護ソーシャルワークにおけるネットワークの意義	岡部卓（首都大学）	<b>第9節 個人情報の取扱い</b>	堀部政男（一橋大学）
③子どもの心の問題をめぐるネットワークの意義	宇佐美政英（国立精神・神経センター）	①～⑤個人情報管理について	内閣府青少年育成担当
④若者支援におけるネットワークの意義	津富宏（静岡県立大学）	⑥個人情報の共有について	田邊忍（滋賀県健康福祉部）
⑤ケース検討会、担当者レベルでの会合等の進め方	佐竹直子（国立精神・神経センター）	⑦現場の実践例（非行少年等立ち直り支援システムにおける個人情報の取扱い）	工藤啓（NPO 法人「育て上げ」ネット）
⑥若者に関わる諸機関と概要	（社）青少年育成国民会議	⑧現場の実践例（NPO 法人「育て上げ」ネット）	
⑦現場の実践例（横浜市におけるネットワーク）	宮本正彦（横浜市子ども青少年局）	<b>第10節 アウトリーチ（訪問支援）の方法</b>	近藤直司（山梨県立精神保健福祉センター）、新村順子・田上美千佳（東京都精神医学総合研究所）
⑧現場の実践例（三重県における若者の就労支援のためのネットワークづくり）	宇佐美真（三重県生活部）	①～⑦アウトリーチの方法論について	
⑨現場の実践例（当事者グループをコアとする、地域のネットワーク）	宇田川健（NPO 法人地域精神保健福祉機構）	<b>第11節 非行等幅広い分野におけるアウトリーチ（訪問支援）の手法</b>	谷口仁史（NPO ステュデントサポートフェイス）
⑩現場の実践例（ひきこもりの地域支援）	目良宣子（和歌山県田辺市保健福祉部）	①～⑥ユースアドバイザーのアウトリーチ活動について	
⑪現場の実践例（宿泊型若者自立支援（若者自立塾・栃木））	塚本竜也（若者自立塾・栃木）	<b>第12節 アウトリーチ（訪問支援）に係る現場の実践例</b>	石井正宏（NPO 法人青少年自立援助センター）
⑫現場の実践例（たちかわ若者サポートステーション）	古賀和香子（たちかわ若者サポートステーション）	①現場の実践例（あだち若者サポートステーション）	宮之脇朗美（福岡市子ども総合相談センター）
	齊藤万比古（国立精神・神経センター）	②現場の実践例（思春期ひきこもり等相談モデル事業）	濱條政則（三重県生活部）
	古賀和香子（たちかわ若者サポートステーション）	③現場の実践例（三重県若者自立支援センター）	佐野正明（草津市立少年センター）
	太田和雄（ぐんま若者サポートステーション）	④現場の実践例（あすくる）	
	関博之（横浜市青少年相談センター）		
<b>第4章 支援の実施</b>			
<b>第4章のねらい</b>	工藤啓（NPO 法人「育て上げ」ネット）		
<b>第1節 相談における基本的態度と心得等</b>	大関義勝（NPO 法人キャリアコンサルティング協議会）		
	山田英治（福島家庭裁判所会津若松支部）		
<b>第2節 インテークと状況把握</b>			
①～⑥インテークについて	古賀和香子（たちかわ若者サポートステーション）		
⑦インテーク時の注意点（主に医学的観点から）	齊藤万比古（国立精神・神経センター）		
⑧インテーク例	古賀和香子（たちかわ若者サポートステーション）		
⑨現場の実践例（ぐんま若者サポートステーション）	太田和雄（ぐんま若者サポートステーション）		
⑩現場の実践例（横浜市青少年相談センター）	関博之（横浜市青少年相談センター）		